

今日の黙想のてびき

週日聖書日課 マルコによる福音書 2：1～12
2024年11月2日(土)

◆文脈と言葉

- 「神の国は近づいた。悔い改めて福音を信じなさい」との言葉によって始められたガリラヤでの活動において、主イエスは悪霊を追い出し、病人を癒やされました。そしてまた「宣教」なさいました。神の国を宣べ伝えられたのです。この癒しと宣教そのものが主イエスが来られたことが神の国の始まりであったのです。
- 1:40 を予告編としてこの第2章から律法が問題になっていきます。律法を文字通り守ろうとするこの当時のファリサイ派、律法学者は、天の父なる神の権威を持って律法の本来の意味である御心を行う主イエスを受け入れられないのです。

◆黙想のすじみち

(1) あらすじと説き明かし

- 主イエスの噂を聞いた四人の人が、中風(脳卒中)による麻痺のある友人(肢体だけでなく話すことにも麻痺があったかもしれません)を癒していただきたい、と主イエスがおられる家へ運んできました。しかし、人でいっばいだったので、家の屋上に登り(どの家もそれが可能な構造になっていました)、天上に穴を空けて主イエスのところに吊り降ろしたのです。
- 主イエスはこの四人の信仰をご覧になりました。マルコによる福音書の前半には、信仰告白や洗礼が生まれる前の、ひたすら癒してほしいと願う素朴な信仰を主イエスがお認めになる話はいくつか出てきます。ここではそれに加えて、本人直接ではなく友達の信仰によって、病気の人が癒やされるのです。ここに教会の始まりを見ることもできるかもしれません。そこで、主イエスはそのことを単なる病気の癒しではなく「あなたの罪は赦される(た)」とおっしゃいました。
- そこにいた律法学者は、これを聞き逃さず神の冒涇と考えました。主イエスはこの思いを見抜き、罪を赦す権威をお持ちであることを示します。それがこの人を歩けるようにすることです。
- 主イエスはこの麻痺の人を起き上がらせることで、病を癒す力をもお示しになりました。この起きるという言葉は「起きて、床を・・・」という言及、実際に「起き上がりなさい」との命令、そして「その人は起きた」、との報告に出てきます。3回も使われるこの「起きる」という言葉は、「復活する」という言葉として、主イエスの業の完成、神のご計画の成就として用いられます。この人は、人の目には単に麻痺が治っただけのように見えたでしょう。

けれども、ここで行われたことは、主イエスが神の権威をもって立ち上がらされた、復活させられた、ということです。主イエスの復活とまったく同じではありませんが、この人はここから新しい命を与えられて、この人は歩きだしたのです。これまでは決められた祈りやささげ物ができず、神を賛美することもできませんでした。けれども、信仰によって、しかも友の信仰によって癒やされて、これからは神の御前に立ち、声を出して祈り、神を賛美して歩むことができるようになりました。ここに新しい復活の命があるのです。ですから、この癒しもまた、罪を赦す権威によってなされたことに違いありません。

(2)内容・意味:この箇所では語られていることの意味は何だと思えますか。神(父・子・聖霊)は何をなさり、何を語られているのでしょうか。

(3)語られる恵み。この箇所から自分に語られた恵みは何だと思えますか